

2019 年度第 1 回学術情報流通推進委員会
議事要旨

1. 日 時:2019 年 8 月 6 日(火)15:00-17:00
2. 場 所:国立情報学研究所 20 階 実習室 1,2
3. 出席者:

(委員)

逸村委員(筑波大学), 倉田委員(慶應義塾大学), 野崎委員(高エネルギー加速器研究機構), 深貝委員(横浜国立大学), 市古委員(慶應義塾大学), 江川委員(東京大学), 久保田委員(北海道大学), 林委員(科学技術・学術政策研究所), 小賀坂委員(科学技術振興機構), 武田委員長, 木下委員(国立情報学研究所)

(陪席)

三宅参事官補佐, 麻沼係長(文部科学省), 漆谷部長, 山地教授, 平田室長, 新妻係長, 林係長(国立情報学研究所)

(事務局)

小野課長, 片岡副課長, 菅原係長(国立情報学研究所)

4. 議事:

議事に先立ち, 各委員から自己紹介を行った。

(1) 前回議事要旨について

事務局(菅原係長)より, 前回議事要旨について資料 1 に基づき説明した。

(2) 2019-2021 年度の活動計画について【審議】

事務局(菅原係長)より, 資料 2-1, 2-2 及び参考資料 2 に基づき説明後, 下記意見交換を行った。

【委員会全体について】

- ・改称して「国際」という語は入らなくなったが, これは学術情報流通について国内・国外を問わない課題となっている現状に合致していると考ええる。
- ・本委員会は, ステークホルダーが情報を交換し議論する場である。したがって, NII の事業のための委員会ではなく, NII が議論を方針づけるものでもない。

【資料 2-1 学術情報流通推進委員会 第 1 期(2019~2021 年度)の活動計画について】

- ・(1)及び(4)において「提言」という文言が含まれている。(1)においては, 各ステークホルダーの活動を俯瞰した上での方向性としての提言であり, (4)においては, 調査に基づいた提言を意図している。

【資料 2-1 (1)国内ステークホルダーとの協調】

- ・ステークホルダーに図書館がいるということを明記する。

【資料 2-1 (4)学術情報流通の動向に係る調査の提言】

- ・「OA2020 の実現に向けた国内の学術情報流通に係る調査を企画・提言する」は, 実態と離れた不正確な表現となるため, 下線部を「OA2020 に関係する」と修正する。

(3)2019年度の各ステークホルダーの活動計画について【報告】

江川委員(オープンアクセスリポジトリ推進協会), 市古委員(大学図書館コンソーシアム連合), 久保田委員(国立大学図書館協会), 小賀坂委員(科学技術振興機構), 事務局(国立情報学研究所)より, 資料3-1~3-5に基づき説明後, 内容についての質疑応答及び下記意見交換を行った。

【ポジションペーパーの作成について】

- ・ 本委員会は, 大学図書館関係者及びオープンアクセスに関係するステークホルダーが集まった, ボトムアップ型の会議である。そのため, 自分たちの抱えている問題の解決を図る, そのための提言とする。
- ・ 提言作成の前段階として, 各ステークホルダーでポジションペーパーを作成し, 次回委員会で報告する。まずは各ステークホルダーの目指すこと(活動の方向性)や他のステークホルダーに望むこと, どのステークホルダーも未着手なこと, 個別でやっているだけではうまくいかないこと等を, 現に活動している立ち位置から列挙する(箇条書き可)。
- ・ そうした作業を経てポートフォリオを組んだ上で, 重なる部分をすり合わせたり, 抜けているところを確認したりする。その前提として, 出版社等も含めた学術情報流通に係る世界的な動向を把握しておき(マップを作成する), それに照らし合わせて日本の置かれている状況を整理する。
- ・ マップは, 主となるものの他に, 図書館や研究者等に向けた補助的なものを作成してはどうか。これにより, 研究者と研究支援者の関係を明確な形で提示しようと期待する。

(4)SPARC Japan における今後のアドボカシー活動について【審議】

事務局(菅原係長)より, 資料4-1-1, 4-1-2に基づき説明後, SPARC Japan セミナー企画WG主査の林委員から補足説明のうえ, 下記意見交換を行った。

【SPARC Japan セミナーについて】

- ・ 今までの SPARC Japan セミナーでは, 俯瞰して情報提供をする回もあれば主義主張を提示する回もあり, 統一性がなかった。どちらを選択するにせよ, 今後はこの点を意識しながら企画を進めていく。

次に事務局(菅原係長)より, 資料4-2, 4-3に基づき説明後, 下記意見交換を行った。

【資料4-3 海外動向を踏まえた情報発信について】

- ・ 情報発信は, サイトで公開してはどうか。提案のあったニューズレターに書く形は, 古い情報提供の仕方ではないか。更新頻度が低いこと自体は致し方ない。
- ・ 一方で, 印刷メディアは印刷会社等とのやりとりがあるため, 工程管理や締切管理がしやすいというメリットがある。
- ・ OA2020 や PlanS が情報発信の主題となると想定されるが, これらをめぐる問題は変化が複雑である。ニューズレター等で, 発行時のタイミングで主題をとらえて記事等にするというのは, 情報が断片化する恐れがある。タイミングや公表の仕方などを練りなおすこととする。

(5)学術情報流通に係る調査内容について【審議】

事務局(菅原係長)より, 資料 5 に基づき説明後, 了承された。

(6)その他

ほかに議題等がないことを確認し, 終了した。